

平成27年西東京市教育委員会第9回定例会会議録

- 1 日 時 平成27年9月26日（土）
開会 午前10時00分 閉会 午前10時57分
- 2 場 所 防災センター6階 講座室2
- 3 付議事件 別紙議事日程のとおり
- 4 出席委員 教 育 長 前 田 哲
教 育 長 職 務 代 理 者 竹 尾 格
委 員 宮 田 清 藏
委 員 森 本 寛 子
委 員 高 橋 ますみ
委 員 米 森 修 一
- 5 出席職員 教 育 部 長 櫻 井 勉
教 育 部 特 命 担 当 部 長 南 里 由美子
教 育 企 画 課 長 早 川 礼 成
学 校 運 営 課 長 等々力 優
教 育 指 導 課 長 田 中 稔
統 括 指 導 主 事 西 川 幸 延
指 導 主 事 宮 本 尚 登
教 育 部 副 参 与 兼 教 育 支 援 課 長 渡 部 昭 司
社 会 教 育 課 長 岡 本 範 子
公 民 館 長 伊 田 昌 行
教 育 部 主 幹 主 幹（公民館）兼芝久保公民館分館長 矢 澤 吉 男
- 6 欠席職員 教 育 部 副 参 与 兼 図 書 館 長 奈 良 登喜江
- 7 事務局 教 育 企 画 課 企 画 調 整 係 長 倉 本 直 子
教 育 企 画 課 企 画 調 整 係 主 査 和 田 克 弘
- 8 傍聴人 0人

平成27年西東京市教育委員会第9回定例会議事日程

日 時 平成27年9月26日（土） 午前10時から

場 所 防災センター6階 講座室2

- 第 1 会議録署名委員の指名
- 第 2 議案第60号 西東京市立学校給食運営審議会委員の委嘱について
- 第 3 報 告 事 項
 - (1) 平成 27 年度学校活動支援団体等に対する東京都教育委員会感謝状贈呈団体等の決定について（報告）
 - (2) 児童生徒数・学級数の状況について
 - (3) 平成 27 年度 全国学力・学習状況調査報告
 - (4) 平成 28 年（平成 27 年度）西東京市成人式について
- 第 4 そ の 他

西東京市教育委員会会議録

平成27年第9回定例会
(9月26日)

午 前 10 時 06 分 開 会

議事の経過

○前田教育長 ただいまから平成27年西東京市教育委員会第9回定例会を開会いたします。

これより直ちに本日の会議を開きます。

日程第1 会議録署名委員の指名を行います。本日は竹尾委員にお願いしたいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○前田教育長 それでは、本日は竹尾委員にお願いいたします。

○前田教育長 日程第2 議案第60号 西東京市立学校給食運営審議会委員の委嘱について、を議題といたします。

事務局から説明をお願いいたします。

○等々力学校運営課長 議案第60号 西東京市立学校給食運営審議会委員の委嘱について、の提案の説明を申し上げます。

本議案につきましては、児童・生徒の保護者の代表の委員のうち、1名の欠員に関する補充を行うため、西東京市立学校給食運営審議会条例第3条第2項の規定に基づき上程をするものでございます。

委員の任期は本日から平成29年8月31日までとなります。

説明は以上でございます。

○前田教育長 説明が終わりました。質疑を受けます。――質疑を終結します。

人事に関する案件ですので、討論を省略いたします。

これより議案第60号 西東京市立学校給食運営審議会委員の委嘱について、を採決いたします。原案に賛成の方の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

全員賛成。よって、本議案は原案のとおり可決されました。

○前田教育長 日程第3、報告事項に入ります。

本日4件ありますけれども、報告につきましては1件ずつの報告として御意見をいただきたいと思っております。

(1)平成27年度学校活動支援団体等に対する東京都教育委員会感謝状贈呈団体等の決定について(報告)について、説明をお願いいたします。

○早川教育企画課長 それでは、私から、平成27年度学校活動支援団体等に対する東京都教育委員会感謝状贈呈団体等の決定について報告いたします。

お手元の資料を御覧ください。

こちらは、東京都教育委員会が都内の公立学校における学校活動の支援及び地域における児童・生徒の育成活動を続けている団体、個人に対して毎年感謝状を贈呈しているものでございます。

今年度は、学習ボランティアや読み聞かせ活動が贈呈対象となる、学校教育活動支援部門

として、地域の子どもたちに読み聞かせ活動を行っている「もぐらの会」の皆様に感謝状が贈呈されることが決まりました。なお、感謝状につきましては、東京都教育の日である平成27年11月7日に東京都庁におきまして贈呈される予定です。

以上でございます。

- 前田教育長 説明が終わりました。質疑を受けます。――質疑を終結します。

それでは、報告事項（2）児童生徒数・学級数の状況について、教育企画課長お願いします。

- 早川教育企画課長 それでは、続きまして、平成27年9月1日現在の児童・生徒数について報告させていただきます。

資料の児童数・学級数状況表を御覧ください。表面が小学校で裏面は中学校となっております。

まず、表面Aの通常学級の表、一番上の表を御覧ください。

合計欄、右下の部分でございますけれども、小学校18校で児童数は9,226名でございます。児童数は4月当初から比べますと14名増となっております。また、昨年の同時期の9月対比で見ますと77名の増となっております。なお、昨年との比較になりますので泉小学校の児童数の増減等も引き続き掲載をしております。

内訳でございますが、昨年の9月と比べて児童数が増えている学校、減っている学校でございますが、増えている学校は、保谷小学校が136名、柳沢小学校が37名、住吉小学校が55名、ほかに増えている学校は9校でございます。逆に児童数が減っている学校は、谷戸小学校が21名、栄小学校が36名、上向台小学校が28名、ほかに3校が昨年の9月対比で減っております。

続いて、裏面を御覧ください。

中学校生徒数でございます。9月1日現在で通常学級の生徒数合計が3,965名となっております。4月対比では1名の増でございます。また、昨年の9月対比で見ますと5名の増となっております。

学校別に見ますと、昨年の9月と比べて生徒数が増えている中学校は、ひばりが丘中学校が81名、田無第三中学校が10名、青嵐中学校が13名の増となっております。一方、生徒数が減っている学校は、田無第一中学校が25名、田無第二中学校が35名、そのほか4校が昨年の9月対比で生徒数が減っております。

全体を通しまして、児童・生徒数の増減は、各学校、地域によりまして、また年度によってもばらつきがあるという状況でございます。

以上でございます。

- 前田教育長 説明が終わりました。質疑を受けます。――質疑を終結します。

それでは、報告事項（3）平成27年度 全国学力・学習状況調査報告について、説明をお願いします。

- 西川統括指導主事 それでは、私から、平成27年度 全国学力・学習状況調査報告について、説明させていただきます。

平成27年度全国学力・学習状況調査報告について、を御覧ください。

1の調査の内容でございますが、4月21日に小学校6年生と中学校3年生の全児童・生徒を対象として、国語、算数・数学、理科の3教科及び質問紙調査を実施いたしました。なお、国語、算数・数学では、主に知識に関する問題であるA問題と、主に活用に関する問題であるB問題の2種類の問題を実施しております。二つの調査の目的につきましては御覧いただいたとおりでございます。

3の調査結果でございます。(1)の表が小学校6年生の結果でございます。国語と算数と理科の3教科のそれぞれで、国語と算数につきましては、主に知識に関するA問題と活用に関するB問題について、全国、東京都、西東京市の平均正答率、さらに全国と東京都と西東京市を比較した値を示しております。

西東京市の正答率でございますが、国語Aは73.5%、国語Bは69.3%となり、全国比でプラス3.5%とプラス3.9%、東京都比でプラス1.2%とプラス2.8%となっております。算数Aは78.9%、算数Bは49.6%となり、全国比でプラス3.7%とプラス4.6%、東京都比でプラス1.5%とプラス1.8%となっております。理科は65.2%となり、全国比でプラス4.4%、東京都比でプラス2.8%となっております。

(2)の表が中学校3年生の結果でございます。西東京市の正答率でございますが、国語Aは78.9%、国語Bは68.6%となり、全国比でプラス3.1%とプラス2.8%、東京都比でプラス1.7%とプラス1.6%となっております。数学Aは68.2%、数学Bは45.8%となり、全国比でプラス3.8%とプラス4.2%、東京都比でプラス1.9%とプラス1.8%となっております。理科は、53.8%となり、全国比でプラス0.8%、東京都比でプラス1.3%となっております。

(3)は、質問紙調査のうち、特徴的な内容をお示しいたしました。

はじめに、スマートフォンや携帯電話を持っていない中学生の割合です。平成25年度が26.5%、平成26年度が21.1%、平成27年度が17.5%となっております。

次に、朝食を毎日食べているかという設問に対して、食べている、どちらかといえば食べていると回答した児童・生徒の割合は、小学校で97.2%、中学校で95.7%であり、全国比より、小学校が1.6%、中学校が2.2%上回っております。

次に、地域行事に参加をしていると回答した児童・生徒の割合は、小学校で54.2%、中学校で27.7%であり、全国比より、小学校が12.7%、中学校が17.1%下回っております。

4の結果の考察といたしましては5点ございます。

1点目として、小・中学校ともに全国の平均正答率を上回っておりますが、学校ごとに見ると正答率が異なるため、各校で本調査の結果を分析することが求められます。市全体では全国や東京都の分析とほぼ同様の結果となります。

恐れ入りますが、1枚おめくりください。

こちらは各教科の合計正答数の分布を示しております。例えば、左上の小学校国語Aを御覧ください。小学校国語Aの問題は全部で14問あり、西東京市の正答数の分布は棒グラフで示したとおりとなります。また、全国の分布は四角の点で示した折れ線グラフ、東京都の分布は三角の点で示した折れ線グラフとなります。御覧のように、10のグラフ全体では、教科や学年によっては分布の様子が異なりますが、西東京市の分布の仕方と全国と比較して大きな違いは見られません。

恐れ入りますが、再度一面に戻っていただき、考察の続きを申し上げます。

2点目として、全国の平均正答率を下回る学校では、授業の初めに教師が目標を示したり、授業の最後に学習を振り返る活動を行ったりすることが不足しております。授業の狙いを明確にするとともに、言語活動を一層充実させた授業を行っていくことが必要です。

3点目として、算数の授業において、より簡単に解く方法を考えたり、考え方がわかるようにノートを工夫したりしている児童が全国平均値より5%高くなっており、算数科における授業改善が進んでいることが考えられます。

4点目として、家庭や学校で規則正しく生活している児童・生徒が多い傾向にあります。一方で、スマートフォンを所持する中学生が急激に増加しており、インターネット等のルールやマナーに関する教育を行う必要がございます。

5点目として、中学校理科において、知識や技能を問う説明では正答率が全国平均値を上回っていますが、知識や技能を実生活のさまざまな場面に活用する力を問う問題では課題が見られます。

5の今後の取組の方向性としましては5点でございます。

1点目として、本年度より様式を統一化した「授業改善推進プラン」に基づく授業改善が全校で実施されるよう指導主事が本プランに基づいた指導・助言を行います。

2点目として、教科専門性の高い教員等を集めた「学力向上推進委員会」の活動を一層推進します。小学校においては本年度算数科で行った委員会を引き続き行い、中学校においては理科に関する効果的な指導法の開発を行う委員会を設置します。

3点目として、大学や多摩六都科学館等と連携を図りながら、理科に対する児童・生徒の興味・関心を高める取組を検討します。

4点目として、各学校の課題に基づく、夏季休業期間等を活用した補習教室等の一層の充実を図ります。

5点目として、インターネットに係る犯罪被害を防止するために、学校や家庭と連携して、インターネットに関する「西東京市・子どもネットセオリー（仮称）」を策定します。

以上で説明を終わります。

○前田教育長 説明が終わりました。質疑を受けます。

○米森委員 今の中身で前もお伺いしたかもしれませんが、各学校が比較可能な対象、西東京市とか東京都とか、データはどういったもので比較されているかということと、それから、5の（5）は大事だと思います。ネットセオリー（仮称）の中で、簡単にどういったことをお考えか教えていただければと思います。

○西川統括指導主事 各学校には、全国学力状況調査の結果を示したデータをそのまま学校に送っています。その中で、各質問紙の内容や回答の内容について細かく分析されたものが比較されるようになっております。

○米森委員 全国値。

○西川統括指導主事 はい。2点目のインターネットに係るネットセオリーですが、何か中学生や小学生の中でルールを決められるようなものを考えております。今後のことなのですが、例えば、生徒会などで話し合いながら子どもたちの中で携帯電話やスマートフォンの使い方

についてのルールなどを決められるようなものがないかなということ、今検討している段階でございます。

- 宮田委員 まず、調査の結果なんですが、東京都よりもいいということはわかりましたが、全国で一番いい都道府県というのはどこで、そしてそれらと比べると西東京市はどういう状況なのかをまず教えていただきたいんですが。
- 前田教育長 すぐわかりますか。
- 竹尾委員 多分1位は秋田県だよ。
- 宮田委員 要は、よく言われていますが、だから本当に何点なのかとか――。
- 田中教育指導課長 今すぐに何点というのではないんですけども、秋田県であるとかそういうところの結果について、今読み上げる形にさせていただいてよろしいでしょうか。
- 宮田委員 はい。
- 田中教育指導課長 秋田県は国語のAが76点、そして国語のBが76.4点、そして算数のAが小学校で81.2点、そして算数のBが51.5点、そして理科が66.7点ということになっております。中学校3年生は国語のAが80.8点、国語のBが70.7点、数学のAが68.4点、数学のBが46.9点、そして理科が59.6点ということでございます。このあたりの結果につきましても、この前行われました校長会の中では、全国、上位自治体との比較を併せて校長には伝えてありまして、全国平均を基準にするだけではなくて、もっと高いところを目指していこうという働きかけは9月の校長会でさせていただきました。
- 宮田委員 じゃあ、次の質問なんですが、秋田県でも地方とまたいろいろあるんだろうとは思いますが、どうしていいのかの研究というのはやっておりますか。
- 田中教育指導課長 この間、秋田県、石川県、福井県等の情報については、まずは家庭教育と学校教育の循環性が図れている。つまり、学校でやった学習を家庭に持ち帰って、また学校に戻していく、このような好循環が生まれているということ。それから、生活習慣が比較的安定していること。また、教員の中で学び合う態勢があること。特に秋田県の中では、小学校、中学校を含めましてさまざまな機会 で教員同士が学び合う仕組みができ上がっていること。この3点が主な共通点として三つの県の中にあります。
また、場合によっては自治体独自の学力調査を行ってしまして、自治体がそれを分析し、1回だけの結論になるのではなくて、ある程度関連性を持たせながらやっているというような例も報告を受けております。
- 宮田委員 そういうことをやられたら、それを考察の中に、または方向性の中に入れるべきだと思んですが、そういうふうに見た限りでは十分になっていないような感じがいたしますが、それはどうしてですか。
- 西川統括指導主事 今回に関しましては、東京都と全国の平均というところでこの結果の考察と今後の取組のほうをつくらせていただきましたので、上位レベルの県との比較というのはなかなかできなかったところがあります。ですので、こちらのほうに反映できなかったということがあります。
- 宮田委員 私はただ、今、田中課長がおっしゃったようにすぐ言えるんだから、それをやらなかった――要するに、誰かがこうやれって言わないとやらないんじゃないかと思うんです

よね。だから、私は、教育委員会というのはいつも最高を目指してどうしたらいいかというのを頭を使っていたらいいと思うんです。言わないからやらなかったと、そういうんじゃないかと。要するに、子どもたちには自分で考えて自分で生きると言いながら、自分たちはどうなんだという話なんです。だから、それはやっぱり自分たちも考えて、そういうことも入れた指導方針、方向性を考えていただきたいと思うんですけれども。

○田中教育指導課長 御意見をしっかりと踏まえてやっていきたいと思えます。

まず、教員の共同性につきましては2番のところに強く反映をさせています。西東京の良いところは、教員の学び合う雰囲気は少しずつできつつあるということです。それぞれの学校の力のある全教員を集めまして、そして共同で研究をして戻していくという、これは秋田などの取組を踏まえて、西東京に反映させたものであります。

また、少し言葉足らずになってしまいましたが、インターネットに関わるもの、こちらのは家庭教育にどう働きかけていくのかというような位置付けにもしてあります。つまり、これは子どもだけでは調整できませんので、是非子どもたちがつくった意見等を保護者にどう伝えていくのか、家庭教育にどう反映させていくのか、あるいは家庭の中でそのことについてどう考えていくのかというような切り口を持たせていますので、今、委員がお話いただいたことについてまだまだ十分に反映できていないところもありますが、そのあたりのことも分析を踏まえて、一部ですが反映させている状況です。また、さらに御意見を踏まえたものをしっかりと学校との調整の中で出していって頑張っていきたいと思っています。

○宮田委員 もう1点ありまして、理科に関しては多摩六都科学館と連携を図りながらと言うんですけれども、私は農工大にいた関係で、農工大で理科教育を中学生に教えるという予算をとって、働きかけや何かをしているんですけれども、それで校長会に諮っていただいたと聞いておりますが、そういうことを全く書いていないんですよ。だから、何かお仕着せだけを書いているような気がしてしょうがないんですけれども、もうちょっと現実のことも。せっかく全部大学が費用を、400万円予算をとっていますので、人員まで派遣すると言っているにもかかわらず、そういうことを全く書いてなくて理科の向上を図ると。だから、多摩六都科学館と連携を図りながらと言うんですが、じゃあ、具体的に何をどうしようと考えているんでしょうか。

○田中教育指導課長 まず、こちらのほうの3番に大学というふうに書かせていただいています。このところで今のお話のものについても一応三つ考えていて、農工大をまず考えています。それから、もう一つは東大との今の連携をさらに充実させていきたいということ。それから早稲田大学のやっている小学校の理科実験教室につきましても、どうしても子どもと早稲田大学との連携になってしまいますので、そこに一つ教員も参加させたいというふうに思っています。宮田委員のお話の中の大学につきましては、そのところで三つ大学を今現在進めていて、本年度も農工大のほうの取組には既に何名かのお子さんが行って、2年越しでしょうか、しっかりと勉強して、またそれを私たちに還元してくれるということを期待して、今、楽しみにしているところです。今、そういうような状況でございます。

○宮田委員 ちょっと大学を読み飛ばしてすみませんでした。そうやって言うだけで結構だと思います。

- 森本委員 この朝食を毎日食べていると回答した児童で、やっぱり要は食べていない児童が何名かいるわけです。もちろん毎日という問いかけなので、たまに抜いているという児童も含んでいるとは思いますが、そういう児童についてちゃんと追跡調査というか、家庭の中でその子たちがちゃんと食事とかをとれているのか。変な言い方ですけども、虐待とかネグレクトとかにつながるようなことになっていないかみたいな調査はちゃんと行われているのでしょうか。
- 田中教育指導課長 この全国学力調査は6年生だけになります。それ以外の学年で、例えば、食について毎日であるとかそういう細かな調査は行っていないというのが状況です。しかし、やはり教員としては、そのあたりの家庭の状況というのを子どもの変化から見取っていくということについてはしっかりやっていくというのが、この間、昨年度の悲しい事件が起きた後の教員のコンセンサスにはなっているなどは思っています。
- ただ、教育委員の方々に御提案をいただきました児童虐待の気づきを高めていく生活指導台帳というものを各学校でネットの中でやらせてはいるんですけども、これについては学校間の温度差があります。たくさんの小さなことでも書きとめる学校もあれば、なかなか書きとめる状況にまだ至っていない学校もありますので、運用面ではまだまだやるべきことがあるというふうに考えていますので、9月の校長会でも統括指導主事からしっかりとという話はさせていただきましたが、この後は個別具体の指導、助言に変わっていくかなと思っています。
- 高橋委員 小・中学校ともに全国及び東京都の平均正解率を上回っているというのはとても喜ばしいことで、恐らく日頃の先生方の御指導も地道に努力されていることの結果だと思うんですけども、今後の取組の方向性についてなんですけど、五つ出ていますけれども、ここに西東京市らしさというのが出ているのかなと思ったんですね。国語、算数、理科という教科がここで評価されるので、そこに視点を置いて考えるというのも大切だと思うんですけども、ほかの教科からのアプローチということも子どもたちの学力を上げていくには大変重要だと思うんですね。西東京市の教育委員会が主催していることでもう既にそういう大切なことをやっていらっしゃって、私がこの9月の13日にきらっとで行われた「魔法の遊び教室」というのに行ったんですけども、これは親子で体を使ってスキンシップしながら遊ぶということを教育委員会主催でやってくれたんですけども、そういったことをやってくださっている。学力を上げていくには幼児のころからの積み重ねがとても大切だと思うんですね。小学校での学習能力を伸ばすためにも、その下地づくりをするという意味でこういった取組をされていて、大変よい取組だと思うので、そういった部分も今後の方向性として挙げていってもいいんじゃないかなと思いました。小学校に上がってから、または中学校に上がってからということはもちろん大事なんですけど、その前からの取組、もっと前からということをやっているというのは、西東京市のちょっとした特色として挙げていったらどうかなというふうに少し思ったんですけども。
- 田中教育指導課長 西東京市は公立幼稚園を持たない自治体ですので、なかなか就学前教育との連動性というものは、公立幼稚園のある自治体に比べると少し協調関係がとりづらいつという実態があることは確かです。そういう中で、就学前教育と、それから就学後の義務教育

との連続性であったりとかそういうものについては、国のレベルでもうかなり今議論がされているところで、一つの方向性になり得るものだなというふうに思っています。私共としても、今社会教育と連動した家庭教育についてのアプローチの事業を、昨年、本年とさせていただきます。昨年は学力向上に焦点を当てた取組、本年度は体力向上に焦点を当てた取組。一つは啓発的な意味合いもありますし、もう一つは是非保護者の方に子どもと関わる楽しさを知ってもらいたいというような、一つの体験的な思いを持って今回実施しました。次年度につきましても、今は知、そして体ときましたので、どういうテーマでやっていくのかということについては、社会教育を所管する公民館等との連携をさらに深めながらやっていくことを課長間で今話し合っているところです。

○宮田委員 ちょっと統計のほうに戻りますが、小学校が9,226名、中学校が3,965名。そうすると、中学校は3年間ですから小学生の大ざっぱに見て半分と見ると4,600名に対して、現状で約4,000名いるわけで、600人以上が地元の学校に行っていないという感じがするわけです。そうしますと、もし地元の学校にみんな行ったらそれだけお金がかかるわけで、その部分を私はもうちょっと教育費にかけて、理科だとかなんとかいろんな意味での教育費に、そういう部分は浮いているはずですからかけていただきたいということが第一点と、それから、小学校のときのいわゆる全国平均、例えば国語でいうと3.5で、西東京市は両方足すと4.7向上しているわけですね。ところが中学だと、両方足すと4.8になるわけで——あんまりこれは変わらないのか、こっちは変わらないですね。じゃあ、国語のBだと6.7と4.4ぐらいですから大分差があるわけですね、応用的なほうは。という、その600人ぐらいの方が非常に上位で抜けてしまうから、中学は平均的に下がっているというような感じを持つんですが、そういう見方というのは正しいと思われるのかどうかということをお聞きしたいんですけれども。

○前田教育長 2点御質問があったと思いますが、まず2点目のほうが答えやすいので、教育指導課長、お願いします。

○田中教育指導課長 2点目についてお答えします。

まず、私学、あるいは中高一貫校等に抜けていく割合というのは、これは否定できません。ただし、それを原因だけにしてしまうと学校というのは伸びていきませんので、まず教員の授業の内容について、やはり小学校に比べて中学校については、例えば体験的な学習であったりとか、あるいは言語活動を伴う問題解決的学習については、旧来の一斉授業形態のものが多いです。そのあたりは、やはりお互い教育委員会と、あるいは中学校の研究会と連携をしながら授業の内容について焦点を当てていきたいなと思っています。ただし、東京都においては上位層がどの自治体においても抜けてしまう状況があるということが、西東京だけに限らずにあるということでございます。

○前田教育長 学力上位層が抜けるというのは私学がこれだけある東京都の宿命なわけですが、むしろ学力上位層が抜けた後の子どもたちに対してどういうきちんとした教育をしていくかということが、まさに義務教育というか公立学校教育の使命だというふうに私なんかは思いますので、そこは本当に力を入れてやっていきたいなというふうに思います。

○前田教育長 教育費の話は、これは非常に大難問ですが、教育部長、とりあえず何かあれば

お願いします。

- 櫻井教育部長 教育費の問題はかなり厳しいところがございますが、教育全体で見ますと、やはりさまざまな施設の更新、そういったものも実はかなり今控えておまして、そういう意味でかなり教育費全般が今後も膨らんでいくということは想定されます。ただ、そうは言っても日々子どもたちが過ごす学校ですから、そこにきちんと予算付けしながらやっていくということも大変重要だというふうに考えておりますので、そういう意味では、教育費全体の中で一定ちゃんと中身を常に精査し、必要なものには予算を要求していく、またスクラップする部分はスクラップしていくと、そういう姿勢は教育委員会全体で持っていきたいというふうには思っております。
- 宮田委員 私は、ですから市長部局や何かとの連携のときに、いつも平均値で、人数が600人減ったから予算もそれに従って減るというよりは、いたらこれだけ金かかるんだと、だからそういう計算をして、それに対して全額出せということよりも何%か出して、もうちょっと、例えば、中学校に電子黒板を導入するとかそういうような方向でやっていかないと、いつも頭割りだけでやると予算がなかなか——いい教育が中学校の子どもたちに与えられないのではないかと、そういう議論、要するに、議論の観点を、これだけみんな個人でお金を出してやっている、もし全部西東京市にいれば市の出費はこれだけになる話だと。もちろん国からも来るけれども、市の出費も当然増になるわけですから、それに対してこのぐらい入れて、だから視聴覚教室とか、またはコンピューター教育の施設を入れるとか、そういうような、要するに議論の方向性を考えていただけたらどうかという提案なんですけれども。
- 櫻井教育部長 参考にさせていただきたいと思います。
- 前田教育長 問題意識としても持ってほしいよ、今おっしゃるとおり。先ほどもちょっと申し上げたんですが、学力上位層が抜ける——端的に言うと、コスト的には、自主的に勉強されるそういう子どもたちと、さまざまな生活面、学力面で課題を持った子とどっちがコストがかかるかという、やはりどうしても学力面、生活面で課題がある子どものほうが、ある意味でコストがかかるというのが現実にありますので、そういうことは我々としてきちんと意識して、そういう子どもに対するきちんとした支援をするためにはコストをかけていかないとという問題意識は常に持ってやっていきたいというふうに思っています。
- 竹尾委員 西東京市の予算の中で教育費が一番——やっぱり福祉のほうが大きいですか。
- 前田教育長 扶助費が一番大きいんじゃないのか。
- 宮田委員 福祉が圧倒的に大きいんじゃないですか。
- 櫻井教育部長 民生費——そうですね、福祉が一番大きいです。
- 前田教育長 ただ、あれは人件費がないでしょう、教育は。
- 櫻井教育部長 人件費は、教員の方たちのはありませんけれども、事務局のほうのは入っています。全体で見ますと、教育費は全体の約1割ですね。
- 前田教育長 1割ですよ。人件費入れるとぼんと増えます、いわゆる都が負担しているやつを入れるとね。
- 竹尾委員 都が負担しているから市の財政上は問題ないよね。

- 前田教育長 はい、それは見えませんので。ちょっとその辺の分析は、実はあんまりそれほどしていないところもあるので、ちょっと1回、先ほどの宮田委員の御指摘も含めてやる価値はあるかと思っておりますので、ちょっと宿題として受けとめておくということで。
- 竹尾委員 なかなか財務当局は「いただき」というか、発想が強いですから。先生のだって、これだけ要らないんじゃないかという、これは教育の費用じゃないよ、市の財政課のほうの予算だよってなっちゃうものですから非常にしんどいだろうと思います。
- 宮田委員 ですから、それを崩す論理というのをやっていかないと、なかなか——区と大分違うんですよ、設備なんか。市と区とは違う。
- 竹尾委員 あっちは金があるから。
- 前田教育長 それはそもそもの財政上の考え方というか、向こうは財調で圧倒的な金額を持っていますので、それは厳しいですね。
- 竹尾委員 固定資産税が全然違いますからね。
- 前田教育長 全くおっしゃるとおりです。
- 竹尾委員 だから、都が財政調整をやりますから、それでみんな持ってくるんだけど、それがなくて千代田区なんか大変なものになっちゃいますよね。
- 前田委員長 はい。

ほかに質疑はございませんか。——質疑を終結します。

最後に、(4)平成28年(平成27年度)西東京市成人式について、説明をお願いいたします。

- 岡本社会教育課長 私から平成28年(平成27年度)西東京市成人式について、報告申し上げます。

成人式につきましては、第1の目的に書いてありますとおり、次世代を担う新成人の方に、法律上の権利・義務の観点から、社会の一員として認められる年齢に達したことを自覚してもらう日として新成人を祝福する日でございます。この日を節目といたしまして新成人の門出をお祝いするために式典を挙げるものがございます。

実施日ですが、第4にございますとおり、平成28年1月11日(月曜日)、成人の日を実施をしたいと思います。

会場は、第5にございますとおり、保谷こもれびホールのメインホールを用いまして開催をしたいと思います。

対象は、第6にございますとおり、今年度は平成7年4月2日から平成8年4月1日までの出生者の方を該当者としております。

実施でございますけれども、こもれびホールの客席数に上限がありますので2回に分けて行いたいと考えております。

実施の区分は、第8にございますとおり、第1回は5校、第2回目につきましては4校を対象にして開催をする予定でございます。

裏面を御覧ください。

第10の式典の概要でございますけれども、式典のアトラクションとして、昨年度に引き続き田無第二中学校の和太鼓部の演奏並びに今回の新成人の方たちの卒業時の担任の先生です

とか、市内にいらっしゃる先生方にメッセージビデオへの出演を依頼しておりまして、その方たちのビデオを上映する予定であります。

第12の式典の案内につきましては対象者の方々に御案内をさせていただきたいとホームページや「広報西東京」において、市民の方々への周知を図りたいと考えております。

第13、その他の（４）でございますけれども、親族等の観覧場所につきましては、こもればホールの小ホールにスクリーンを準備いたしまして、そちらで観覧をしていただく予定でございます。

また、（３）に戻りますけれども、今年につきましてはとても落ち着いた成人式でございましたが、今年と同じように実施できますように専門の警備員を配置いたしまして、行いたいと考えております。

私からは以上でございます。

○前田教育長 説明が終わりました。質疑を受けます。――質疑を終結します。

それでは、以上で報告事項を終わります。

○前田教育長 日程第４ その他、を議題といたしますけれども、教育委員会全般について何かあればよろしくお願ひします。

○森本委員 先日、9月20日に早稲田の「STEP22」で「中学生による縄文まちづくり提案」というイベントが行われて、中学生たちがいろいろ下野谷遺跡を生かした地域の活性化みたいなものを発表していて、すごくいい催しだったと思って、子どもたちにそういう場が与えられたということもとてもよかったし、発表内容も本当に子どもたちが西東京市のことまでいろいろ予算まで考えてくれていて、とてもいい場だったなと思っています。

ただ、参加している中学生の学校とかに偏りが結構あったんですけれども、この企画自体はどのような過程を経て子どもたちに知らされたのか教えていただけますか。

○岡本社会教育課長 この企画につきましては、文化財の保存・活用計画を現在策定しておりますので、その中での意見聴取ということで企画をいたしました。生徒の参加につきましては、各中学校に全員分チラシをまくのと同時に、中学校の先生方をお願いをいたしまして、参加者を募集したところでございます。第1回目、第2回目、それから発表が3回目ということになっておりましたので、部活と重なると、1回目から3回目のどこかでは出席できないということで、それでなかなか参加が難しかったと思われます。中学校の校長先生からも、チラシをまくのと同時にお声がけもいただきましたが、部活を毎日毎日やっているもので、そちらに力を込めてやっていてなかなか手も挙がらなかったとお聞きをしております。

○森本委員 それでも12人でしたか、発表してくださる生徒さんがいらっしゃるってとてもよかったなと思って。ただ、やはりそれにしても聞いていらっしゃる方がどうしても少なかったなという感は否めなかったんですね。やはり子どもたちなので、大人のことなら別にいいかとは思いますが、せつかくのあの場なので、たくさんの方に聞いていただけるようにしたほうが良いかと思っておりますので、子どもたちに場を与えたら、やはり聴衆のほうも増やすような努力をしていったほうがいいのかと思って。私たちにも案内がなかったので、子どもたちが発表する場であれば、なおさら是非お話をいただけたらよかったかなと思ひました。

それ以外の学校の先生方もそんなにたくさんは来ていらっしゃるような感じがなかったので、先生方にも自分のところの生徒が発表する場なので、是非来ていただけたらよかったかなと感じましたので、その辺の広報活動のほうにももう少し力を入れていただけたらいいかなと思いましたので、よろしくお願いします。

○前田教育長 それは次回以降よろしくお願いします。

○岡本社会教育課長 はい、わかりました。注意してまいりたいと思います。

○高橋委員 先ほど少し申し上げた、きらっとで行われた「魔法の遊び教室」なんですけれども、これは本当にとってもいい取組だと思ったんです。構成として、最初に親子体操があって、4歳から7歳のお子さんと親御さんが参加されていたんですけれども、30分親子体操があって、その後15分休憩で、その後30分講義があったんです。山梨大学の先生がいらっしゃって、親御さんに対して、保護者に子どもと関わることの大切さ、家庭教育の大切さというのを面白く、興味深く講義してくださっていたんですね。その間に、子どもはスタッフが遊ばせているという画期的な取組で、こういうことを教育委員会が主催で行っているのはそうそうないんじゃないかなと思いました。

今、やはり家庭教育の大切さというのはとても課題になっているところですし、親御さんたちが自覚される、もっと子どもと関わらなきゃいけない、自分たちが子どもを教育していかなきゃいけない、4歳から7歳のとても大切な時期ですよ、これから小学校に上がる前。そのこの自覚を持っていただくという意味と、それから、参加されていた方々は、誘い合って来ているというよりは、単独、親子のみで参加している方が多いように思ったので、もしかしたらふだんは閉鎖的な家庭というか、グループで行動されたりはなかなかしていらっしゃらない方が多かったかもしれない、そういう方たちがちょうどいい距離を保って一緒に親子で遊べるという場が、本当に子育てのストレス解消にもなるし、お父様方も多く参加されていたので、すばらしい場所を提供してくださったなと思ったんです。是非充実させていただけたらありがたいということと、あと伺いたいのは、その後アンケートを参加者にとっていらっしゃったと思うんですけれども、それはどのような結果だったのかということと、あと反省点などがもしあったとすればフィードバックしていただければと思うんですけれども。

○前田教育長 今、答えられますか。

○田中教育指導課長 まず、アンケートの結果につきましては、この後であるか、あるいは次回であるか、まとまっているものがありますのでお配りしたいなというふうに思っています。非常に肯定的な意見がありまして、その意見につきましては教育委員会の事務局の内部のほうにも配って共有したところでもあります。なのでお配りしたいと思います。

二つ目は、今のお話の中にちょっと私たちが気づきづらい視点も入っておりましたので、そのあたりを踏まえて、次年度に向けた計画を進めていきたいなというふうに思っています。

○高橋委員 それから、いこいなグッズをお土産につけていらっしゃったというのもよかったと思います。喜ばれたと思います。よろしくお願いします。

○前田教育長 ほかに質疑はございませんか。――質疑を終結します。

そうしましたら、以上をもちまして平成27年西東京市教育委員会第9回定例会を閉会いた

します。どうもありがとうございました。

午 前 10 時 57 分 閉 会

西東京市教育委員会会議規則第29条の規定によりここに署名する。

西東京市教育委員会教育長

署 名 委 員